

SHOW HEY シネマルーム

★★★★★

メラニーは行く！

配給/ブエナ ビスタ インターナショナル ジャパン

2003 (平成15) 年3月31日鑑賞

Data

監督：アンディ・テナント

出演：リース・ウィザースプーン／

ジョシュ・ルーカス／パトリ

ック・デンプシー／キャンデ

イス・バーゲン

👁️👁️ みどころ

南部のアラバマの田舎からニューヨークへ出てきたメラニーは今や大成功をおさめたカリスマデザイナー。大成功の新作発表のショーの後、ティファニーの本店でニューヨーク市長の息子からプロポーズ。仕事も最高！恋も最高！しかし……。メラニーには戸籍上の（旧）夫がいたから大変。一方でドタバタ喜劇が、他方で女心の微妙なアヤが……。最後のドンデン返しはよくできている。それでこそイイ女だ！メグ・ライアンにかわる「ラブ・コメディの新女王の登場」といううたい文句にも少し納得……。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<主人公に注目>

主人公メラニーを演ずるのは、リース・ウィザースプーンという長ったらしい名前のブロード美人。何でもこの『メラニーは行く！』の大ヒットで「ラブ・コメディ新女王」の呼び名を定着させたとのこと（本当かなあ？たしかラブ・コメディの女王は、メグ・ライアンのはずだが、彼女はOKしたのかな？……）。それはともかく、この映画はリース・ウィザースプーンのために作られた映画と言っても過言ではない。まさに『メラニーは行く！』というタイトルがピッタリの、女性向け映画に仕上がっている。

メラニーの職業は、ニューヨークのカリスマデザイナー。今日は新作発表のショーの日。そして、メラニーの彼氏は、ニューヨーク市長ケイト（キャンディス・バーゲン）の息子アンドリュー（パトリック・デンプシー）。いつどんな形でプロポーズがくるかを待っているというウキウキの状況だ。とにかく、女性として、恋も仕事も最高。ということなし。これが今のメラニーだ。

<アンドリューのプロポーズ>

ショーを終えたメラニーを迎えにきたアンドリューのリムジンは、メラニーをある場所に案内した。そしてアンドリューが登場。しかし、あたりはまっ暗だ。「ここは一体どこ・・・？」と聞くメラニー。突然明かりがともると、そこは、ティファニーの本店。すべての店員がメラニーとアンドリューを迎えていた。そしてその中でアンドリューはメラニーにひざまずいて求婚……。一瞬とまどったものの、結果はもちろんOK。そして何と「好きな指輪を選んで」ときたもんだ。

女性から見れば何とも最高にロマンチックでハッピー、しかし男から見たら、「お前、バカか！」と思うようなプロポーズの場面……。

<話が単純でないところがアメリカ的>

アンドリューのプロポーズをOKしたのはいいが、実はメラニーには大問題があった。メラニーは南部アラバマの出身。今でも南北戦争の思い出(うらみ?)が残っているアラバマでは、北部の人間やニューヨークは大キライ。そんなアラバマに育ったメラニーには高校時代につき合っていた彼氏がいて、実は正式に結婚していたのだ。アラバマを離れて、一人ニューヨークへ旅立ち、努力の甲斐あって今は大成功を収めたメラニーは、夫とはすでに事実上の離婚状態にあったものの、実は正式の離婚届を出しておらず、戸籍上はまだ夫婦のままだったのだ。あわてたメラニーは婚約発表を急ぐアンドリューを押し止どめ、1人アラバマへ帰郷した。そして旧夫ジェイク(ジョシュ・ルーカス)を訪ね、離婚届へのサインを迫ったが……。

<何とも面白い南部人>

ウソかホントか知らないが、この映画によると、南部では今でも南北戦争のことを思い出し、市民参加の「南北戦争ショー」をやっているらしい。それも参加者全員が軍服を着て、馬に乗り、銃や大砲を轟かせての本物のショーだ。またこの映画を観ていると南部ナマリは相当スゴイらしい。何でもファッショナブルでオシャレな街ニューヨークとは大違いだ。

メラニーはジェイクとの離婚交渉にケリがつかないまま久しぶりに実家に戻ったが、メラニーの価値観と父親、母親の価値観との食い違いも面白い。そしてメラニーやジェイクの同級生や仲間たち。みんな面白い連中ばかりだ。やはり昔の故郷の仲間がいい。これは万国共通か……。

サッサと離婚届にサインをしてもらってニューヨークに帰ろうと思っていたメラニーの心境にも、このような昔の仲間との「交流」の中、少しずつ微妙な「変化」が現われてきた。いやはや「女心と秋の空」とはよく言ったものだ……。

＜ドタバタ喜劇とシリアスな心理描写＞

そんなアラバマに、アンドリューがメラニーを驚かそうと思って訪ねてきた。そこで展開されるのが「ウソつき」メラニーとそれを応援する仲間たちのドタバタ劇。しかし、そんなウソがいつまでも通るはずはない。「南北戦争ショー」が終えた後、そのウソはバレた。そしてアンドリューはキレてしまった。さあメラニーは万事休すか・・・。

リース・ウィザースプーンの目のクリクリとした動きや、早口のしゃべり、そしてコミカルな演技—ここらを見れば、メグ・ライアンを継ぐ、新ラブ・コメディの女王という称号もうなずける。

そして他方、ジェイク・・・。こいつは口は悪いが根はいい奴だ。まるで俺みたい・・・。仲間とのパーティで酔っぱらってしまったメラニーの枕もとには、ジェイクがサインした離婚届の用紙が置かれていた。

＜結婚式はアラバマの田舎で＞

アンドリューはニューヨークで結婚式を挙げる予定としていたが、メラニーの提案をのんで、アラバマの田舎でやることを決意した。もちろん母親の市長は大反対だがやむをえない。ニューヨーク市長の息子の結婚式だから、その準備は大変だ。

そして結婚式の当日。花嫁の父に導かれてバージンロードを歩き、新郎の手に引き継がれようとした時、突然一人の男が飛び込んできた。何と彼は、離婚届に夫ジェイクのサインはあるものの、妻メラニーのサインを忘れていたことを告げるために来たのだ。そして、離婚届を受け付けるためにはメラニーのサインが必要であると訴えた。きわめて当然の事務処理の要請だ。大事なことを忘れていたことに驚くメラニー。そこで、メラニーはサインをするため、ペンを貸してくれるよう求め、さあ、手取り早くサインをしようとしたが・・・。しかし・・・。

＜イヤな女からイイ女に変身＞

男から見ていて、このメラニーという女は、いかにも鼻持ちならない、ジコチューの女。仕事も恋も大成功。そして故郷に帰っても、「私はダサイ連中とは違う！」と張り切っている。そして「サッサと離婚届にサインしなさい！」と半分ジェイクに強要だ。そして他方、アンドリューに対しては、猫なで声で「アイラブユー、アイラブユー、アイラブユー」だ。早く過去をきれいに清算して、臭いものにはフタをして、王子様の懷に飛び込もうとしている魂胆が丸見えだ。イヤな女！！

そういえば、こんな女、俺のつき合ったヤツの中にも約0名いるな、と思いながら観ていたが・・・。

何となく途中から雲行きが怪しく(?) なってきた。これはひょっとしたら、いい女かもしれない……。ホントは正直な女かもしれないな……。と思い始めたのだ。そして最後は、最高に「イイ女」になっていた!

<オシャレな冒頭とラストのキスシーン>

冒頭、男の子と女の子が2人、手をつないで遊んでいる。そして女の子は男の子に「どうして私と結婚したいの?」と質問。それに対して男の子は「いつでもキスしたいから」と答えて、2人はキス。

そしてラストのシーン。メラニーと男性Xが同じくキスシーン。「どうしてボクと結婚したいの?」と聞く男性Xに対してメラニーは、「いつでもキスしたいから」と答えて、2人は長いキス。何ともオシャレなおチがついたラブ・コメディだ。

全米大ヒットのワケがよくわかる楽しい映画。しかし、こんな女に振り回されたら男は大変なことまちがいなし。俺もせいぜい用心しなければ……。

2003 (平成15) 年4月1日記